

第2章

都市づくりの目標

これからの都市づくりを進めるうえでの理念と目標、
目指すべき将来の都市の姿を明らかにしています。

1. 都市づくりの理念と目標
2. 人口フレーム
3. 目指すべき将来の都市の姿

1. 都市づくりの理念と目標

(1) 都市づくりの理念

本市は、国土レベルの交通軸の立地にみられるように、その地理的優位性を活かし、産業の誘致や人口増加策に積極的に取り組んできました。これらの都市政策が功を奏し、本市はこれまで順調に都市の成長を続けてきました。

しかしながら、生活道路をはじめ、歩行者・自転車空間、子どもの遊び場や日常的な憩いの場となる公園など市民生活に身近な都市環境は、必ずしも満足を得る水準に達したとは言えません。また、行政主導による公共施設整備にも限界があるとともに、都市基盤整備だけではない、今ある地域資源を上手に活かした都市づくりが求められるようになってきています。

これからの都市づくりは、健康で住みよい都市を実現するため、少子高齢化、地球環境問題、防災などの様々な社会的課題に対応しつつ、市民と行政の協働による都市づくりが求められています。

都市づくりの構想・計画は、その実現に時間を要することから、長期的展望にたって立案に取り組むことが重要であり、社会情勢が大きく変化している今こそ、風格を備えた都市の実現を目指して、都市づくりの基本的な考え方を明らかにする必要があります。

本市には、金勝山系の緑豊かな山々や清らかな水のせせらぎなどの心やすらぐ自然環境、旅人が行き交った往時の様子を偲ばせる中山道や東海道などの歴史街道、そして数多くの重要文化財などの歴史遺産など、様々な固有の地域資源があります。これらの特長を最大限に活かし、誰もが住みよさを実感し、いつまでも誇りと愛着を感じることができる都市を実現していきます。そして、市民参画と協働によりわがまち栗東の魅力を磨き、次代へと継承していきます。

～都市づくりの理念～

“風格都市栗東”

都市の風格。それは、自然と建築物、
道路や公園などによって形づくられる都市の空間。

そして暮らしやすい環境を次代に継承しようとする人々のいとなみ、想い。

これらが、長い時間の流れとともに固有の文化となって醸しだされたものが品格ではないでしょうか。

風格都市栗東とは、美しい街並みや市民のライフスタイルに、わがまち栗東への誇りと愛着があふれる都市の姿を表したものです。それは、暮らしやすさを高めようと市民がまちづくり活動を積み重ねる姿が、長い歳月をかけ文化として根付くことにより実現するものです。



(2) 都市づくりの目標

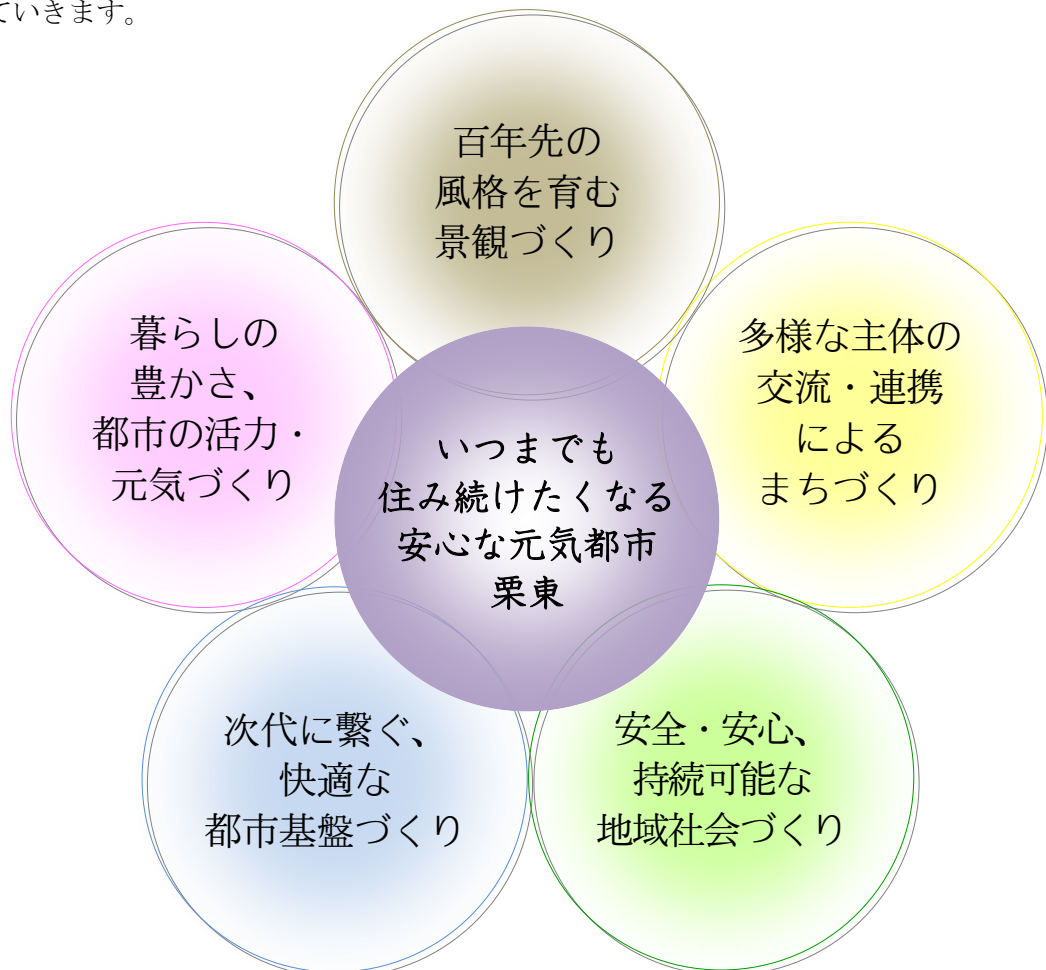
本計画が目標とする今後の10年間は、大きく変化する社会情勢の中、市民とともに力を合わせて、便利で快適な今日の暮らしに住みよさを実感できるものへと育てていくため、安全・安心な暮らしの充実、都市の魅力・活力の向上に取り組み、わがまち栗東の魅力と個性をしっかりと次世代に継承していくことが求められています。

本市には、これまで培われてきた地域のまちづくり活動の主役となる「ひと」、広域的な交通結節点にあり、鉄道駅を中心とした市街地や産業が集積する活力ある「まち」、そこでの生活環境や、本市の魅力形成する豊かな自然、美しい景観、歴史・文化などの「環境」があります。

そうした資源を活かしながら、積極的な情報提供などにより、市民に暮らしの安心をはじめ、子育てや福祉・健康、経済、行政の安心をしっかりと提供しつつ、市民と行政の知恵と努力を結集し、総ぐるみで「住みたい、住み続けたい」と思える安心・元気な都市づくりに取り組みます。

いつまでも住み続けたくなる 安心な元気都市栗東

緑と文化のまち・栗東を実現するための都市づくりの目標として、「いつまでも住み続けたくなる安心な元気都市栗東」を掲げるとともに、実現に向けて5つの視点から都市づくりを力強く推進していきます。



(3) 目標の推進方針

◆ 百年先の風格を育む景観づくり

- ・美しい景観は、様々な交流を生み、地域の魅力や活力を高めるだけでなく、暮らしやすさを高め、市民の地域への誇りや愛着を醸成し、心美しい人を育みます。
- ・これまで、多くの市民や様々な主体との連携・協働のもとで進めてきた景観づくりを発展的に継承し、真の暮らしやすさを実感できるよう、今後も百年先の風格を育む景観づくりに取り組みます。
- ・金勝山系の山並みや麓に広がる田園地域、身近な里山、歴史街道をはじめとする貴重な歴史資産など、地域固有の特長を守り、次世代に引き継いでいくとともに、様々な交流を育み、地域の魅力や活力を向上していくため、景観協定や景観地区などを活用しつつ、美しいまちづくりを進めます。
- ・市民とともに身近な景観を見つめなおし、自らができる景観づくりを通じて、心と心の繋がりや住民相互が助け合うコミュニティを築き、「風格都市栗東」の実現を目指します。

- 1) ふるさと栗東の美しい風景の保全・育成
- 2) 個性を活かした景観づくりの戦略的な実践
- 3) 地域への誇りと愛着を醸成する協働による景観づくりの展開



◆ 暮らしの豊かさ、都市の活力・元気づくり

- ・来たるべき Society 5.0^{*}の社会を見据え、IoT^{**}やAIなどの技術を活用しながら、本市の個性をさらに磨き、市民一人ひとりが暮らしの豊かさを実感しながら住むことができ、将来にわたって住み続けたいと思える都市づくりを目指します。
- ・未来ある子どもたちが健やかに育ち、子育て世代などの若い世代が住み・働き続けられる環境づくりに取り組むとともに、市民の誰もが生きがいを感じ、社会に参画しやすい都市づくりを目指します。
- ・本市固有の魅力ある地域資源を発掘・活用・育成し、広域的な交流や憩い、レクリエーションの拠点づくりなどによる交流人口の増加を図り、更なるまちの活力や賑わいの創出を目指します。
- ・本市の地理的優位性や交通利便性、周辺地域の産業集積との連携を視野に入れ、「環境」や「新技術」をテーマに本市の発展を牽引する、美しく、活力あふれる拠点市街地の充実、次代の産業振興を支える新たな産業拠点の創造を目指します。

- 1) 住み続けたいと思える都市づくりの推進
- 2) 地域の特性やライフステージに応じた多様かつ魅力ある住環境の確保
- 3) 子どもの健やかな成長を育み、若い世代が住み・働き続けられる環境づくり
- 4) 魅力ある地域資源の発掘・活用・育成による、更なるまちの活力や賑わいの創出
- 5) 「環境」や「新技術」をテーマに、活力を牽引する計画的な拠点市街地の充実、
新たな産業拠点の整備推進



※Society 5.0 :
狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された考え

※IoT :
パソコンなどのコンピューター以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。
Internet of Things の略

◆ 次代に繋ぐ、快適な都市基盤づくり

- 今後の人口減少社会においても力強く成長を続けるために、コンパクトプラスネットワーク※やスマートグロース※（賢い成長）を基本として、これまで以上に計画的・効率的な市街地整備、道路や公園などの都市基盤整備を推進するとともに、その整備にあたっては民間活力の活用や地域住民の参画などによる都市づくりを推進していきます。
- 慢性的な交通渋滞の改善や通過交通と生活道路の混在を防ぎ、誰もがわかりやすく、安全・安心で、人々の生き生きとした生活や交流を支える道路の環境づくりに取り組みます。
- 地域固有の自然や歴史・文化が感じられる個性ある街並みづくりや、身近な健康づくりと連携した歩行者や自転車利用者の道づくり、誰もが気軽にアクセスでき、利用しやすい公共交通の環境づくりを進めます。
- 道路や河川が有する多様な機能や役割を見つめなおし、地域の特性や周辺の土地利用と連動した魅力ある快適な生活空間づくりに取り組みます。

- 1) 長期的な視点から都市の成長を支える計画的・効率的な都市づくり
- 2) 国土レベルの幹線道路ネットワーク、生活道路の改善
- 3) 歩行者や自転車利用者にやさしい道づくり、誰もが利用しやすい公共交通の環境づくり
- 4) 協働による地域の特性を活かした魅力ある生活空間づくりの実践

※コンパクトプラスネットワーク：

生活サービス機能や居住を公共交通沿線や日常生活の拠点に緩やかに集約・誘導し、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークを再構築することで、市民生活の利便性を向上させるとともに、持続可能な都市を目指すこと。

※スマート・グロース（Smart Growth）：

1990年代以降に米国で発展した都市政策の考え方であり、「賢い、賢明な成長」と訳される。総合的な計画を用いて、コミュニティの誘導、開発、再生することを指し、成長を制限するのではなく、地域社会の効率的で持続可能な成長を模索する考え。

◆安全・安心、持続可能な地域社会づくり

- ・頻発する自然災害から市民の暮らしを守るとともに、地域の身近な緑や水辺を活かすおおいある、豊かな暮らしの創出を目指します。
- ・SDGs*未来都市の実現に向けて、集約的な都市構造を基本としつつ、住宅の長寿命化や自然エネルギーの活用など、様々な分野の連携を図りながら、総合的に環境負荷の小さな持続可能な都市づくりを進めていきます。
- ・本市南部に広がる森林や田園、里山、河川といった豊かな自然環境の手入れを行い、多面的な機能を将来にわたって継承するとともに、持続可能な農林業を促進します。
- ・多様な地域間の交流機会の創出をはじめ、工場などが集積する特性を活かした企業と自然環境との連携、地産地消の推進を通じた持続的な農林業の形成などにより、環境・経済・社会の視点から市街地と森林・田園地域がともに賑わう地域社会を目指します。

- 1) 自然災害の防止、水や緑を感じられ、うるおいある豊かな暮らしの創出
- 2) 多様な分野が連携した環境負荷の小さい持続可能な都市づくりの推進
- 3) 自然環境の適切な維持管理・継承、持続可能な農林業の促進
- 4) 都市と自然が共生する地域社会の実現

※SDGs：

2015年に国連で採択された世界が2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標。Sustainable Development Goalsの略

◆多様な主体の交流・連携によるまちづくり

- ・地域住民やNPOなど、多様な主体が地域の良さを見つめなおし、まちの課題解決に取り組む動きが広がりつつあります。
- ・今後も、広報やホームページなどの多様なツールを用いた情報提供を充実し、市民のまちづくりに対する意識を継続的に醸成するとともに、市民と行政の連携・協働による取組を進めていきます。
- ・先進的なまちづくりを市全体へ波及するとともに、まちづくり団体などの交流・連携を進め、地域の優れた環境や価値を守り、磨いていくために、エリアマネジメント*やエリアリノベーション*を進めます。



- 1) まちづくりへの市民参画を促す情報提供の充実
- 2) 市民と行政の協働によるまちづくりの推進
- 3) 多様な主体の交流・連携の促進、エリアマネジメント・エリアリノベーションの実践

※エリアマネジメント：

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業者・地権者などによる主体的な取組

※エリアリノベーション：

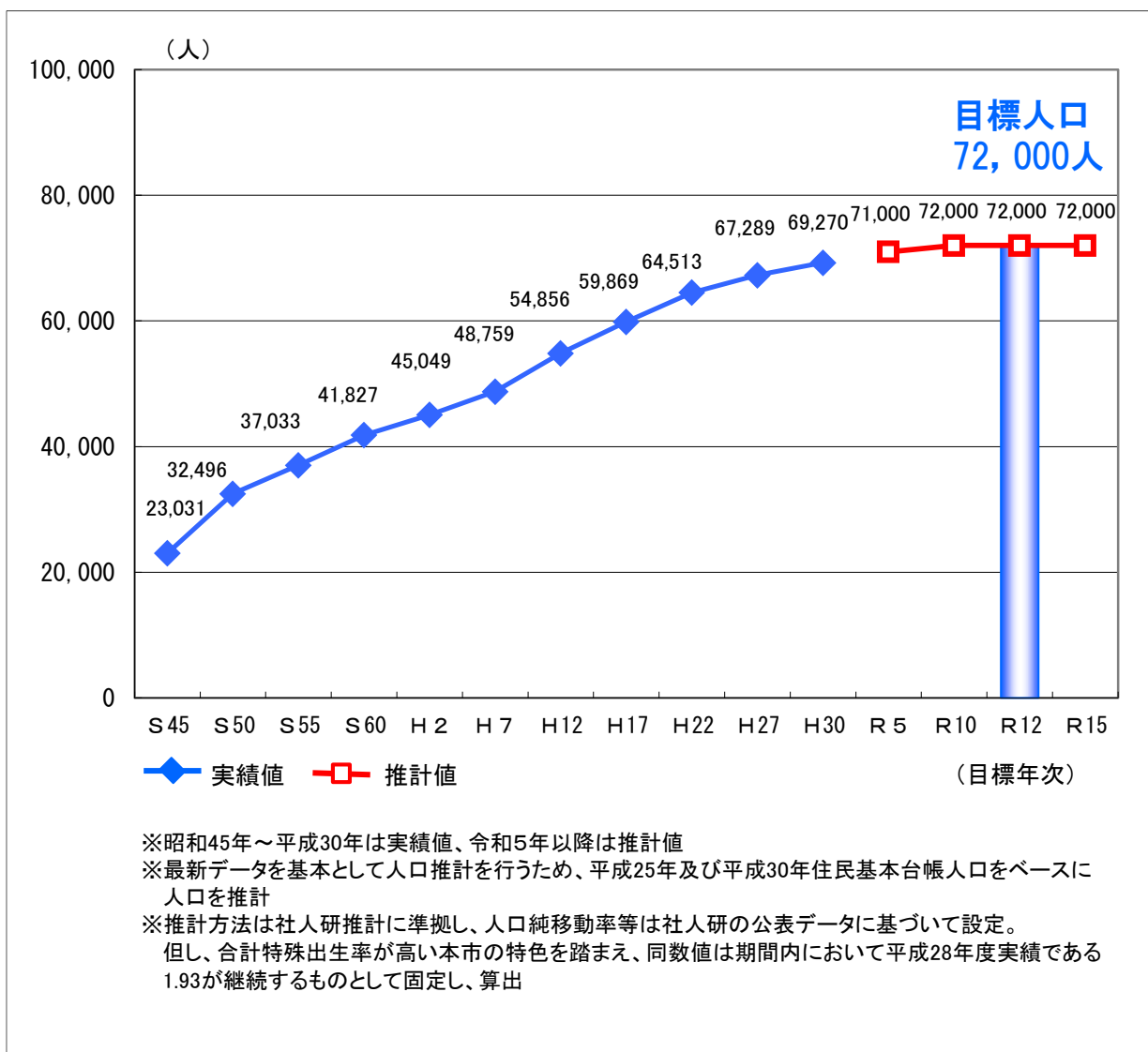
民間が中心となって空家や空きビルを再生し、それらの取組が複数繋がることで、面としてのまちの再生や賑わいを創出する取組

2. 人口フレーム

本市の人口は、恵まれた地理的条件や交通利便性を活かした計画的な市街地整備などにより、これまで一貫して増加傾向にあります。

しかしながら、日本の総人口は既に減少傾向に入っており、今後、本格的な人口減少時代の到来を迎えることが予測される中、本市を含む滋賀県大津湖南地域においても人口の伸びは、将来的に鈍化していくものと考えられます*。

こうした厳しい社会情勢の中においても、第六次栗東市総合計画に基づき、令和12年の目標人口を72,000人と掲げ、地域の特長を活かした多様な住まい方の提案や安心できる子育て環境の充実など、市民が暮らしやすさを実感できる都市づくりに取り組むとともに、適切な整備目標を見極めつつ、計画的かつ適切な都市基盤整備を進めます。



資料) 第六次栗東市総合計画

3. 目指すべき将来の都市の姿

1 広域都市構造

滋賀県基本構想では、「変わる滋賀 続く幸せ (Evolving SHIGA)」の基本理念のもと、「経済」「社会」「環境」バランスが取れ、将来世代も含めた誰もが新しい豊かさを感じながら、一人ひとりが尊重され自分らしく生きることができる、「未来へと幸せが続く滋賀」を目指しています。

また、県南部地域の振興を目的とした中長期的な指針として滋賀県南部地域振興プランにおいては、「交通基盤の整備」、「地域産業の振興」、「広域観光の振興」、特別プロジェクト（元新幹線新駅設置周辺整備地区の地域活性化プロジェクト）を施策の基本的な方向性としています。

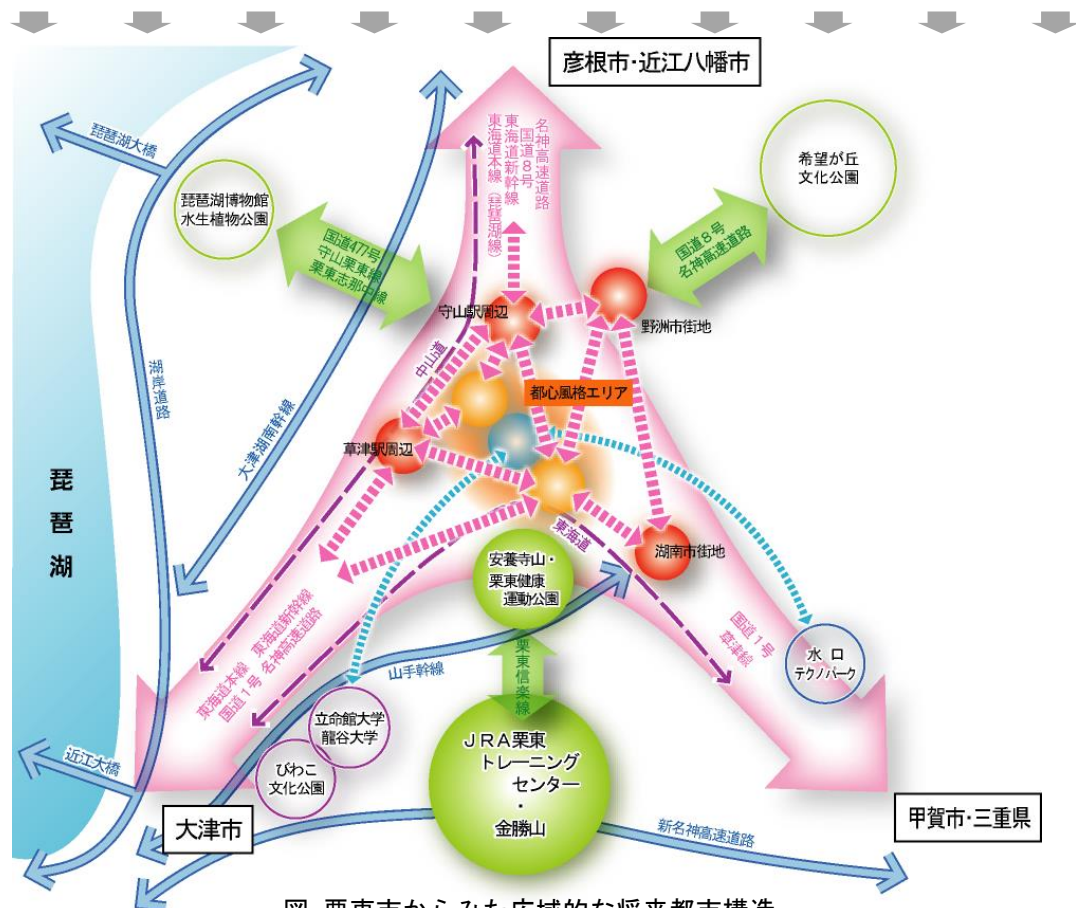
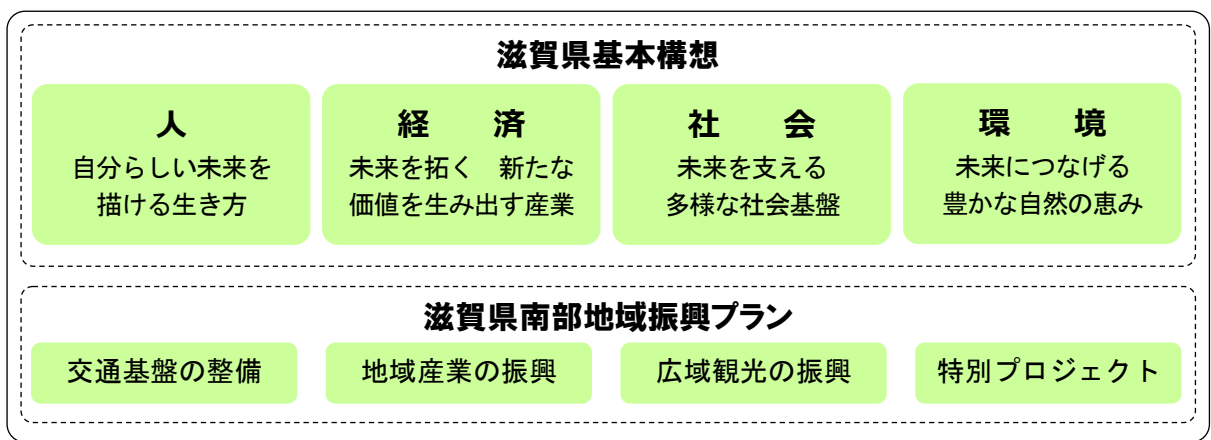


図 粟東市からみた広域的な将来都市構造

2 本市の将来都市構造

1) 広域的にみた本市の役割

- ・本市を含めた大津湖南地域の6市は結びつきが強く、優れた地理的条件や国土レベルの幹線道路などによる交通利便性を活かして、人口の増加や産業の集積が進んでいます。
- ・今後においても、大津湖南地域全体の活力や魅力の向上を目指して、周辺都市と連携を進めつつ、生活・暮らしや医療、特色ある地域資源を活かし、本市の特長や果たすべき役割を踏まえた都市構造の実現を目指します。

■果たすべき役割・目指す将来都市構造の方向性

- 草津市や守山市とともに利便性の高い一体的な市街地の形成、広域的拠点の役割分担・ネットワークの充実
- 名神高速道路、新名神高速道路、国道1号バイパス、国道8号バイパスといった国土レベルの幹線道路の強化・充実、周辺都市と連絡する広域交通ネットワークの形成
- 大津湖南地域の活力を支える、本市の自然環境や歴史・文化など、個性や特長を活かした暮らしやすい生活環境の強化・充実
- 周辺の大学・研究機関や産業拠点などとの連携強化による、人・モノの相互連携や活力・雇用の創出
- 済生会滋賀県病院を核とした広域医療体制の強化・充実をはじめとした、医療・福祉・教育などの分野における大津湖南地域の連携強化
- 金勝山やJRA栗東トレーニング・センターなど本市固有の地域資源の魅力向上、戦略的なシティセールス、大津湖南地域の観光資源との連携による広域的かつ多様な交流の促進
- 草津市や守山市、湖南市と連携した一体的な歴史街道の景観保全や魅力向上

2) 都市構造の基本特性

- ・本市の都市構造は、南部の標高693mの阿星山を中心とした金勝連峰より広がる丘陵地、中央部の田園地域、北部の市街地地域を基本的な骨格としており、田園地域と市街地地域の境界部にある安養寺山や日向山などの里山や地形の変化により、多様で特徴的な景観をつくりだしています。
- ・森林、田園、市街地、里山それぞれの特性を本市の個性として磨きつつ、相互に連携し、相乗効果を高めることにより、本市全体のさらなる発展、市民生活の質の向上を目指します。

3) 地域、都市拠点、軸の設定

- 空間構造や地域特性を活かした都市づくりを進めるため、環境・土地利用のまとまりを示す「地域」、機能の集積や高度化を目指す「拠点」、発展・連携の方向を示す「軸」と、それぞれの基本方針を設定します。

《地域》

地 域	方 針
市街地地域	<ul style="list-style-type: none"> 既に都市的土地利用が展開されている区域及び将来にわたり都市的土地利用が展開されると想定される区域を市街地地域として位置づけ、宅地需要を見極めた計画的な市街地形成を基本方針とします。 市街地中心部では戦略的な市街地整備を進め、生活利便性に優れた市街地の形成を進めます。 市街地外延部においては、ゆとりとうるおいのある低層住宅市街地の形成を進め、必要に応じ、周辺環境との調和に配慮しつつ市街化を検討します。 身近な自然の保全・育成や公園・緑地の確保により、うるおいある生活環境の創出や、風格ある景観の形成、暮らしやすい地域づくりを、市民と行政の協働により進めます。
田園地域	<ul style="list-style-type: none"> 市域中央部の平坦地を中心として広がる農村地域、農地に囲まれた歴史街道を田園地域として位置づけ、農地が有する貯水機能や水源涵養など多面的な機能、農村的環境や田園風景を維持・保全するとともに、市街地との連携による地域活力の増進を図ります。 東海道及び中山道の落ち着いた歴史的環境は地域固有の資産として磨き、活かし、伝え継いでいきます。 都市基盤整備の進展や地域のまちづくりの熟度の高まり等により、産業振興など更なるまちの活力や賑わいの創出等の点においてポテンシャルが高まる地域においては、周囲の自然環境や都市的土地利用状況との調和、円滑な自動車交通環境の維持・改善を基本としつつ、将来的な都市的土地利用の可能性について検討を行います。
森林地域	<ul style="list-style-type: none"> 金勝連峰から広がる本市南部の丘陵地、安養寺山、日向山などの市街地の背景となっている身近な里山を森林地域と位置づけ、琵琶湖への眺望景観や水資源の涵養、温室効果ガスの吸収など、多面的な機能を有する森林環境の保全を図ります。 棚田や森林、河川などを活かしたレクリエーションや環境学習、健康づくり、自然体験のフィールドとしての活用を、子どもたちの遊びと学びの機会と連動させながら地域ぐるみで実践し、多様な交流によって地域の活力・元気を高めます。 田園地域と同様に、ポテンシャルが高まる地域においては、将来的な都市的土地利用の可能性について検討を行います。



■田園地域の風景



■骨格となる金勝連峰の山並み

《都心風格エリアと3つの拠点》

拠 点	方 針
都心風格エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・栗東駅周辺～手原・安養寺周辺にかけては、集積する都市機能の活用や商業の振興を図るとともに、鉄道駅へのアクセスを高め、鉄道駅を中心に、自然や歴史・文化資源との連携により個性的で賑わいのある生活空間の形成、生活利便性の向上を目指します。 ・栗東駅～手原駅を結ぶ歩行者・自転車空間を含む道路空間、利用しやすいバスネットワークなどによりエリア内の結びつきを形成し、風格が感じられる都市景観の実現、都心居住の推進により、生活利便性の高い市街地の形成を図ります。
環 境 ・ 産 業 拠 点	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境」や「新技術」の分野における産業施設の集積を目指すとともに、本市の豊かなバイオマスなどを貴重なエネルギーとして有効活用を促します。 ・環境、新技術に関する産業展示や産業交流による人々の交流を促すとともに、周辺に点在する産業施設との人・情報などの連携により相乗的な魅力向上を目指します。 ・敷地内をはじめ、屋上緑化や壁面緑化などにより、緑豊かな交流空間としての創出に取り組み、都心居住拠点や生活文化拠点との一体性・連続性を確保します。
都 心 居 住 拠 点	<ul style="list-style-type: none"> ・栗東駅周辺は、「栗東駅周辺まちづくり基本方針」に基づき、これまでのまちづくりの成果を活かしながら“栗東駅周辺ならではの”まちづくりを進めます。 ・ウイングプラザや栗東芸術文化会館さきらなどの立地を活かしてさらに都市機能の集積度、文化性を高め、安心して都心居住の楽しさを味わうことができる良好な市街地形成を進めます。 ・草津市や守山市と一体となった日常生活圏を踏まえ、地域住民の暮らしの利便性や快適性を高め、誰もが訪れやすく安心・快適にまちなかを散策でき、歩いて暮らせる住宅市街地の形成を目指します。 ・栗東芸術文化会館さきらでは、音楽をはじめとした文化活動による市民の交流の場として活用を進めます。 ・JRやまちづくり団体などと連携を図りながら、広域交通の結節拠点として観光・地域情報を発信するとともに、都市と森林・田園地域の交流の場として駅東口公共用地を効果的に活用するなど、交流による“栗東駅周辺ならではの”賑わいづくりを目指します。 ・建築物の高さや色彩などに統一感があり、緑あふれる良好な都市景観の形成を進めます。 <div data-bbox="1013 875 1422 1155" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1155 1162 1278 1189" data-label="Caption"> <p>■栗東駅前</p> </div>
生 活 文 化 拠 点	<ul style="list-style-type: none"> ・手原・安養寺周辺は、市役所や手原駅が立地する本市の行政及び市民の生活文化の中核拠点であり、アクセス性も含め誰もが利用しやすい市民のコミュニティ拠点の形成を目指します。 ・駅周辺と地域の自然・歴史・文化などとの連携を強化するとともに、商業機能の魅力の向上により、個性的で生活利便性に優れた拠点の形成を目指します。 ・市民が誇りと愛着を感じられるように、葉山川などの水辺を活用した魅力的な都市空間の創出、沿道の建築物などの景観誘導により、美しい都市景観の形成を目指します。 <div data-bbox="1013 1659 1422 1944" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1166 1951 1267 1977" data-label="Caption"> <p>■手原駅</p> </div>

《その他の拠点と軸》

拠点/軸	方 針
<p>医療・健康・福祉拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の人口減少、高齢化の進展を見据え、済生会滋賀県病院、やすらぎの家、滋賀県済生会看護専門学校など、医療・福祉施設が集積する区域は、病病・病診連携、医療と介護の連携、健康づくりや健康相談に触れられる場づくりなど、複合的な医療・健康・福祉拠点の形成を進めます。 ・なごやかセンターは、総合的な福祉・保健施設として整備されており、栗東自然観察の森や安養寺山などの周辺の緑と一体的に、誰もが自然にふれあえ、健康づくりに取り組める場として機能の維持、充実を図り、健康・福祉拠点の形成を目指します。
<p>文化拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栗東歴史民俗博物館や図書館など教育、文化施設が立地し、都市近郊の緑に恵まれた区域は、誰もが利用しやすい緑に抱かれた文化拠点の形成を目指します。
<p>交流・憩い・レクリエーション拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金勝山県民の森（滋賀日産リーフの森）周辺は、自然体験学習センター（森の未来館）など、自然を活用した環境学習を受け入れる場が整備されています。恵まれた自然や歴史・文化遺産を保全しながら自然環境と共生する整備、誘導を図り、環境学習や健康づくりの場としても機能する交流・憩い・レクリエーションの拠点形成を目指します。 ・栗東健康運動公園は、本市の全国的なイメージを担う馬を資源として活用しながら、市街地近郊で身近に四季折々の自然と触れ合いながら、市内外の人々が多様な交流や日常的な憩いを楽しめる場として整備を進めます。
<p>JRA栗東トレーニング・センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JRA栗東トレーニング・センターは、本市産業の一翼を担うとともに、多様な交流の場でもあり、近年はホースセラピーなどの効果が期待されています。全国的にも知名度の高い施設であり、周辺も含めた良好な環境を維持するとともに、施設特性に配慮しつつ、魅力の向上を図ります。
<p>スポーツ拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栗東運動公園や野洲川運動公園一帯は、既存施設の有効活用やアクセス性の向上を図り、市民が気軽にスポーツや健康づくりに取り組めるよう環境整備に努めます。



■ 済生会滋賀県病院



■ なごやかセンター



■ 栗東市立図書館



■ 金勝山県民の森
(滋賀日産リーフの森)



■ JRA栗東トレーニング・センター

拠点/軸	方 針		
産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> 既存の工業集積地を産業拠点として位置づけ、周辺環境との調和に配慮しながら、操業環境の維持、向上を図ります。 東部まちづくり総合整備計画における新産業拠点は、栗東湖南 I C の交通利便性を活かし、本市の産業振興を担う拠点の形成を目指します。 産業立地のポテンシャルが高い地域については、計画的かつ周辺環境との調和に配慮しながら、新たな産業機能の集積を促進します。 		
景観形成拠点	<ul style="list-style-type: none"> 東海道、中山道などの伝統的建築物や歴史的な雰囲気の街並みなどの保全、育成を進めるとともに、特に、「立場」として発展した六地藏周辺や岡・目川周辺を景観形成拠点に位置づけ、地区の個性を育む景観形成を進めます。 阿星山の麓、琵琶湖への眺望が楽しめる観音寺では、田園風景などの自然資源や景観資源を活かした地域づくりを目指します。 	 <p data-bbox="1109 728 1332 761">■東海道の街道景観</p>	
防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理センターは、災害などの緊急事態における的確・迅速な対応を支え、市民の防災意識や防災に関する知識などの向上を担う施設として維持、充実を図ります。 草津川防災ステーション等では、災害時の緊急復旧活動など各種防災活動の拠点として機能の維持、充実を図ります。 	 <p data-bbox="1189 1041 1412 1075">■危機管理センター</p>	
広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 本市は国土レベルの交通結節点に位置しており、広域的要請に対応しつつ、その立地条件を本市の一層の発展に繋げるため、国土幹線を広域連携軸と位置づけ、広域交通の強化を進めます。 		
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">栗 東 I C</td> <td style="width: 50%;">栗 東 湖 南 I C</td> </tr> </table>	栗 東 I C	栗 東 湖 南 I C
栗 東 I C	栗 東 湖 南 I C		
環境共生軸	<ul style="list-style-type: none"> 都市と自然の連携による持続可能な都市の形成を目指し、広域的な玄関口を含む都心風格エリアと金勝連峰から広がる森林及び琵琶湖の水辺の連携強化を進めます。 癒しや憩い、健康、レクリエーション、環境学習・交流の場として優れた自然環境を活用するとともに、農林産物の販売や地産地消の推進、企業との連携などを進めていきます。 鉄道駅と田園、森林、歴史街道などを結ぶ交通利便性の向上を図るとともに、環境との共生を意識した緑豊かな街路空間の形成、沿道景観の誘導を進めます。 		

- ・市街地と歴史街道、田園、森林を結び、市内外を問わず、多様な人・モノの交流・連携・連携・資源・経済の循環を通じて田園地域、森林地域の活力増進、持続的な環境の維持管理の充実
- ・田園地域、森林地域では、交流・憩い・レクリエーション拠点を中心に、農林産物、癒しや憩い、健康、観光、交流、環境学習などの場を提供
- ・森林地域と琵琶湖と繋ぐ環境にやさしい都市づくり、環境共生軸にふさわしい景観づくりの推進

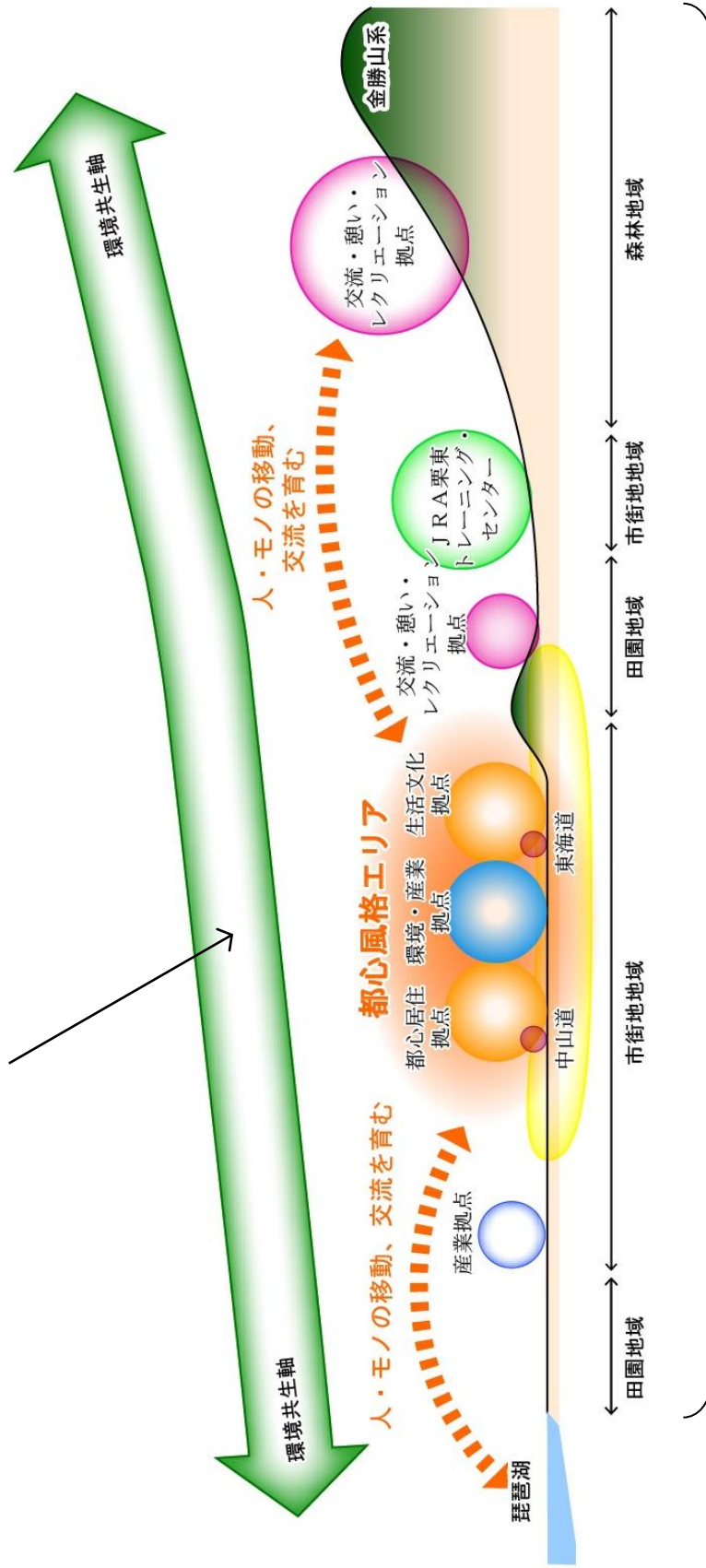


図 将来都市構造（断面）

- ・市街地地域、田園地域、森林地域それぞれの特性に応じたメリハリのある環境づくりや景観形成により、本市にふさわしい風格ある都市の姿を形づくる
- ・交流・連携の強化・充実、人、資源、情報、経済の循環による相乗的な魅力、活力の向上を目指す

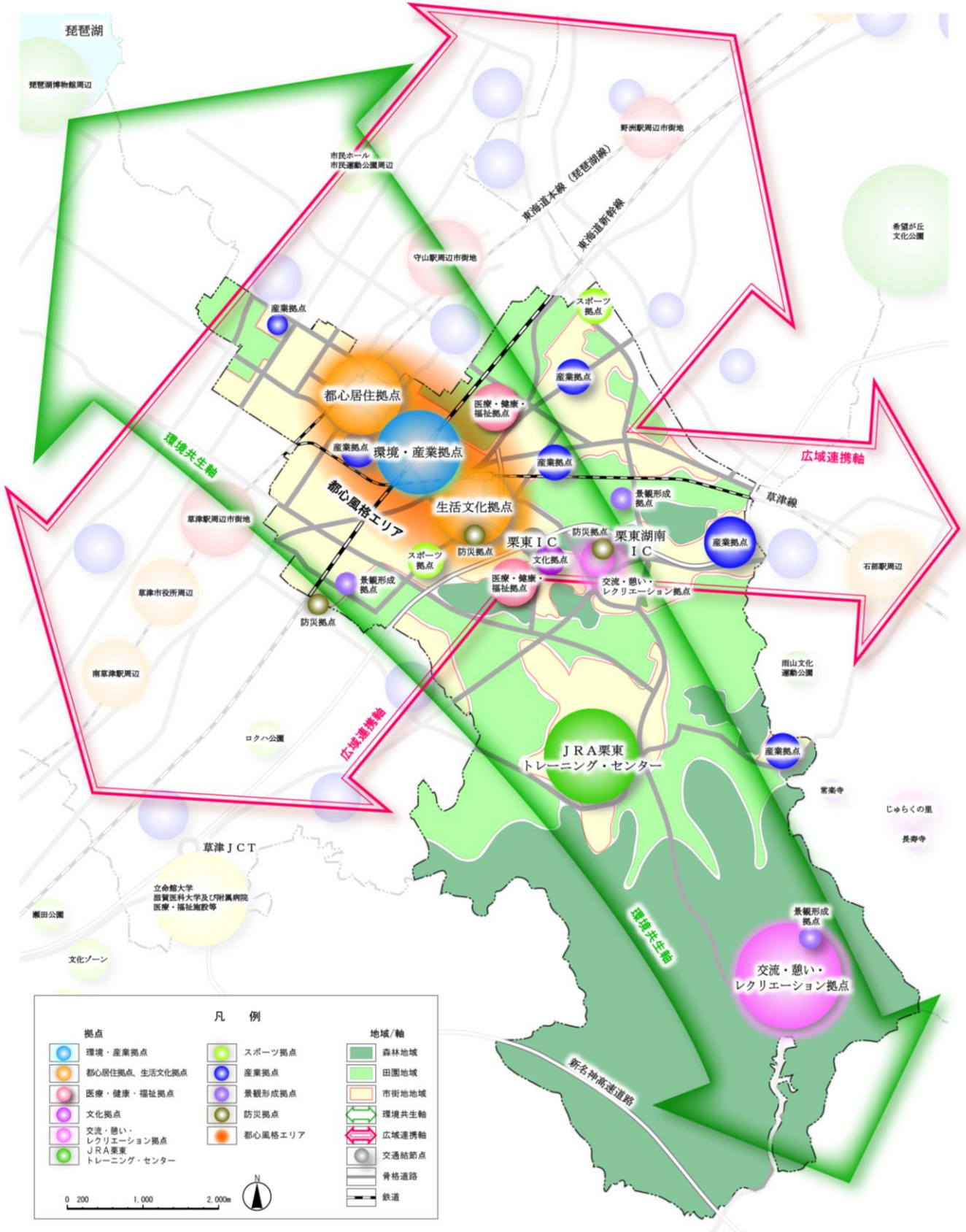


図 将来都市構造図